

令和 6 年度

城里町教育委員会外部評価委員会点検評価報告書

(令和 5 年度分対象)

城里町教育委員会

令和5年度教育行政に関する第2次城里町総合計画施策の体系

〈基本構想〉

【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

ともに社会を生き抜く力を身につける教育

- 施策1 城里町の発展を牽引する人を育てる教育の促進
- 施策2 確かな学力と自ら考える力の育成
- 施策3 豊かな人間性と社会性の育成
- 施策4 健康な身体と体力の育成
- 施策5 特別支援教育の充実
- 施策6 質の高い幼児教育の推進

安心して学べる教育環境の整備

- 施策1 教職員の資質・能力の向上
- 施策2 学習環境の整備
- 施策3 家庭・地域の教育力の向上
- 施策4 学校と地域の連携・協働の推進
- 施策5 教育へのアクセス（受けやすさ）の向上

生涯にわたって学べる環境の整備

- 施策1 生涯学習の充実
- 施策2 生涯スポーツの充実
- 施策3 生涯学習施設の有効な活用
- 施策4 多様な学びの場の確保

郷土の文化の継承と文化財の保護

- 施策1 地域文化の伝承
- 施策2 文化財の保護とPR

総合計画・教育振興基本計画に基づく基本方針と施策の方向

ともに社会を生き抜く力を身につける教育

【基本方針】

確かな学力定着や個性を引き出す多様な教育の機会の提供に努め、これからの社会を生き抜く力を身につける教育を目指していきます。

また、ふるさとを愛する心を育み、地域を支えていく人材を育てていきます。

【施策の方向】

(1) 城里町の発展を牽引する人を育てる教育の推進

城里町教育大綱（教育の基本理念）の町民への周知に努めるとともに、児童生徒が、郷土愛を育み、ふるさとに誇りを持ち、地域社会の一員としての自覚が持てる教育を推進します。

児童生徒が社会や世界との接点を持つことで、自らの可能性を広げること、ふるさとの魅力を再認識することを目指して、さまざまな職業に触れるキャリア教育やグローバル化に対応した英語学習、現代社会が抱える課題を学ぶ総合学習など多様な教育機会の提供に努めます。

(2) 確かな学力と自ら考える力の育成

反復学習により習得した学習習慣や基礎的・基本的な学力を土台に、思考力・判断力・表現力を育む指導の充実を図ります。

コンピュータ等を活用した能動的な学習や、子ども同士による学び合いをはじめとする双方向型の授業を積極的に推進し、児童生徒が主体性を持ち、多様な人々と協働して課題を解決する力を育てます。

小学校から中学校への円滑な教育の継続を目指し、小・中学校が連携して、義務教育期間を通し子どもたちの発達や学びの連続性を踏まえた学習指導や生徒指導に取り組みます。

(3) 豊かな人間性と社会性の育成

少人数学級の強みを活かした教職員と児童生徒との密なコミュニケーションにより、自己肯定感・自己有用感の醸成を図るとともに、児童生徒一人ひとりの状況の把握に努め、いじめや暴力を未然に防ぐ生徒指導の充実を図ります。また、相談を必要とする児童生徒が適切な相談を受けることができるような体制を整備します。

児童生徒が学級や学校を超えて交流する機会として、他校との交流や地域と

の交流をはじめとする校外活動を積極的に進め、コミュニケーション能力や豊かな心の育成に努めます。

児童生徒の学年の段階に応じた道德教育や人権教育の指導に努めます。

(4) 健康な身体と体力の育成

健やかな心身の発育・発達や健康的な生活習慣の定着の大切さへの理解を促す学校保健学習の指導を行います。

体育の授業においては、運動を通じ児童生徒の体力の維持・向上を図るとともに、生涯にわたりスポーツに親しめるよう様々な運動に触れる機会の提供に努めます。

児童生徒の正しい食習慣の定着や食を大切にする意識の育成を図るとともに、地産地消を取り入れた、安全で美味しい学校給食の提供を推進します。

(5) 特別支援教育の充実

障害のある児童生徒が、自己の持つ能力や可能性を最大限に伸ばし、自立の能力と態度を育成する指導に努めます。

また、校内のバリアフリー化等の教育環境の整備や特別支援教育への理解の促進などを進め、特別な支援が必要な児童生徒への支援や対応の拡充を図ります。

(6) 質の高い幼児教育の推進

遊びや生活を通じて学びの基礎となる好奇心や探究心の育成や基本的生活習慣の育成や規範意識の定着を図る幼児教育の充実に努めます。また、幼児一人ひとりの発達に応じた指導を適切に行うことができるよう教職員の資質の向上を図ります。

子どもたちが認定こども園等から小学校へと円滑に移行できるよう、各施設の指導者が連携し、幼児・児童に関する情報交換や、幼児期の教育と義務教育の相互理解の構築を推進します。

安心して学べる教育環境の整備

【基本方針】

質の高い教育を指導する教職員の資質・能力の向上や、児童生徒の学習意欲を高める安全な学習環境の維持・向上に努めます。

学校・地域・家庭の連携の強化並びに家庭教育や地域での教育力の向上を図り、地域の学びの拠点となる、開かれた学校を中心とした総合的な教育環境の整備を図ります。

【施策の方向】

(1) 教職員の資質・能力の向上

児童生徒の確かな学力の修得を目指し、指導する教職員の資質・能力を向上させるため、研修や教育研究活動等を支援します。

教職員が意欲を持って勤務できるよう、身体だけでなく精神的疲労に対処するため、県の講習会への参加促進やカウンセリング等の相談窓口の紹介を行います。

(2) 学習環境の整備

児童生徒の学習・生活の場であり、災害発生時の避難場所にも利用される学校施設の老朽化対策を推進し、施設の安全の確保に努めます。また、今後の少子化に伴い、小中学校の適正規模や適正配置等を検討します。

学校教材の充実や情報通信技術（ICT）利活用のための基盤の整備、遠隔授業やデジタル教材といったオンライン学習のための環境整備など、児童生徒の学習環境の向上にも努めます。

(3) 家庭・地域の教育力の向上

家庭の教育力の向上を図るため、家庭教育学級の開催など家庭教育に関する学習の機会の提供に努めます。また、青少年や家庭が抱える問題に対処するため、地域に相談員を配置し相談体制を確保します。

地域における子どもたちの居場所や学びの場づくりを進めるため、子どもが参加できる地域行事や高校生会などの活動の活性化を促進するとともに、子どもたちが交流し安心できる新たな居場所についても検討を進めます。

地域のパトロールや登下校時の見守りなどボランティア活動への地域住民の参加を促し、学校、家庭、地域が連携し児童生徒の健全な育成を図ります。

(4) 学校と地域の連携・協働の推進

学校と家庭や地域社会が相互に連携・協力した学校教育の実現を目指して、学校のホームページ等を活用した保護者や地域住民に対する情報発信を積極的に進めるとともに、コミュニティ・スクール制度を取り入れ、幅広く意見や助言を求め、地域に開かれた学校づくりや学校運営の工夫や改善を進めます。

子どもたちの放課後等の安全な居場所を確保するため、放課後子ども教室や長期休みの期間中の学習を支援する校外学習などの拡充も検討します。

地域の人材を活用した総合的な学習の時間や職業体験などのキャリア教育を実施します。また、地域の自然や資源を活かした学習・体験講座を実施し、週末等を有効に過ごす機会を提供します。

(5) 教育へのアクセス（受けやすさ）の向上

遠距離通学の負担を軽減するため、スクールバスの運行や、町外へ通学する高校生に対する路線バス・鉄道の利用にかかる交通費の補助を行います。

家庭環境の要因により、経済的理由で就学困難となっている家庭の児童生徒に学用品・修学旅行費・学校給食費等の援助を行います。また、意欲と能力がありながら経済的理由により、高校や大学への就学が困難な生徒・学生に対しては、学資の貸与や独自の奨学金制度の検討などの支援を図ります。

生涯にわたって学べる環境の整備

【基本方針】

すべての町民が、いつでも、どこでも、誰でも、楽しく参加できる生涯学習・生涯スポーツのまちづくりを目指して、施設の効率的な運営やサービスの向上、魅力的なプログラムの開発や人材の育成などの環境の整備を推進します。

【施策の方向】

(1) 生涯学習の充実

町民が主体となり、生涯にわたって質の高い学びを進めていけるように、社会教育諸団体、町民会議などの活動運営に対する支援を行うとともに、あらゆる世代の多様な学びの場の提供を図ります。

コミュニティセンター城里では、ホールを活用して音楽や舞台芸術などにふれる機会を確保します。各公民館においては、多彩な講座や教室のメニューを提供するとともに、その受講生や自主的に活動を行う団体が、日頃の活動の成果を発表する場となる展示イベントを開催します。

町民の中から掘り起こした各分野の優れた人材や、生涯学習講座やサークル活動で習得した技能を持つ人材の登録制度の導入などを検討します。

(2) 生涯スポーツの充実

スポーツ協会やスポーツ少年団などの生涯スポーツ活動団体の育成・支援を推進するとともに、スポーツ推進委員や各種スポーツ団体の指導者等の養成・支援に努めます。

町民の健康維持・増進や体力づくりのために、マラソン大会等のスポーツ行事を開催します。また、町内に七会町民センター「アツマーレ」等の施設があることを活かして、町民のスポーツへの関心を高めるとともに、専門的な知見に基づいた高齢者や障害者に対する効果的な体操プログラムの提供などの取組も検討します。

町ホームページや広報紙などを活用し、スポーツに関する幅広い情報提供を

行い、町民スポーツの普及に努めます。

(3) 生涯学習施設の有効な活用

生涯学習施設や社会体育施設は、町民の生涯学習・生涯スポーツ活動の拠点として、誰もが利用しやすい施設を目指して、部屋の貸出や予約、講座の受付などの運営改善を進めます。

利用者の安全性や利便性を確保するため、各施設の保守点検を行い適切な維持管理を図ります。また、利用が少ない施設や老朽化した施設などについては、窓口サービスや使用料の見直し、今後の改修や維持・管理の方法などについて検討します。

公民館では、各地域のニーズや実態を把握し、公民館機能の有効利用を図り、地域に密着した公民館運営を推進します。また、地域活動の拠点としての充実を図ります。

図書館では、町民の文化、教養、生活の向上に寄与する生涯学習施設として、資料の充実と提供に努めます。また、限られた資源を有効に活用するとともに、読書のさまざまな魅力や価値を伝えるため、コミュニティセンター城里、学校図書室との連携なども検討します。

(4) 多様な学びの場の確保

少子高齢化や人生 100 年時代への対応した多様な学びの場の確保を推進します。今後発生が予想される「働きながら学びたい」「遠くの施設まで通えない」等の多様なニーズに応えるため、オンラインでの講座の開催や高齢者等を対象にしたスマートフォン講座の開催、こうした活動を行う団体への支援などを検討します。

地域においては、3 世代交流事業や子ども会活動への支援を行います。

郷土の文化の継承と文化財の保護

【基本方針】

地域への誇りや愛着の源となる郷土芸能や地域文化を長く後世に受け継いでいくため、保存活動への支援や町民への周知を図ります。

地域の歴史・文化を掘り起こし、有形・無形文化財への登録等により積極的な保護・保全や町内外への PR を図ります。

【施策の方向】

(1) 地域文化の伝承

古内大杉ばやしや八木節源太おどりなどに代表される各地区の郷土芸能の継承と保存活動を支援します。

町内外の各種イベントなどでこうした郷土芸能を発表する場を設け、活動の継続や周知の後押しを図るとともに、自分が住んでいる地区以外の活動に触れ・交流する機会として、複数の団体が一堂に会して発表する場を設けることも検討します。また、担い手の高齢化や会員の減少に対応するため、映像等による記録の作成や、これらを活用した学校教育での保存・継承活動の展開、町内外への映像の配信なども検討します。

黒澤止幾など町の歴史上の偉人や地域に残る伝統工芸などについて、資料等を活用し積極的に周知を図り、観光と連携し地域振興に積極的に活用していきます。

(2) 文化財の保護とPR

町内にある文化資源の調査・収集を進め、貴重な文化財の保護・保存に努めます。また、町の重要な文化財を町文化財として指定し、長く後世に引き継いでいきます。

埋蔵文化財分布地図や文化財ガイド、案内看板などの各種媒体を活用し、地域の歴史を町内外に向けて周知するとともに、歴史の掘り起こしや周知を通じた地域の活性化を図ります。特に、調査が完了した頓（徳）化原古墳については、案内看板の設置や史跡公園としての整備を検討します。

教育委員会の主要事務事業評価シート（令和５年度対象）

I ともに社会を生き抜く力を身につける教育

- 施策1 ALT(外国語指導助手)設置事業
- 施策2 TT非常勤講師配置事業
- 施策3 適応指導事業(うぐいすのひろば)
- 施策3 ふれあいの船事業
- 施策5 特別支援教育就学奨励費事業

II 安心して学べる教育環境の整備

- 施策5 就学支援事業

III 生涯にわたって学べる環境の整備

- 施策1 花いっぱい運動事業
- 施策1 令和6年はたちの集い式典事業
- 施策1 青少年育成城里町民会議
- 施策1 コミュニティセンター城里自主事業
- 施策2 城里町マラソン大会

IV 郷土の文化の継承と文化財の保護

- 施策1 地域文化の伝承
- 施策2 文化財の保護とPR(文化財保護事業)

令和5年度教育委員会事務事業の点検・評価シート
基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	ともに社会を生き抜く力を身につける教育			施策1
事業名	A L T（外国語指導助手）設置事業			城里町の発展を牽引する人を育てる教育の促進（国際理解教育の推進）
事業の目的	小学校段階からの英語活動を通じたコミュニケーション能力の向上と中学校英語教育を充実させる。また英語教員の英語力の向上と授業の充実を図る。			
事業の内容・効果	4人のA L Tを小中学校に派遣し、中学校においては英語科教育の充実を、小学校においては、外国語活動及び国際理解教育の充実を図る。 児童生徒の国際感覚、コミュニケーション能力の向上に寄与した。 町単独契約（4人） 週35時間勤務 （事業開始：平成23年度）			
予算科目	款	教育費	予算現額（千円）	14,145 千円
	項	教育総務費	執行済額	13,094 千円
	目	事務局費	予算執行率	92.6%
評価項目	評価	理由		
妥当性	4 3 2 1 高 ■ □ □ □ 低	教育委員会が外国人と直接雇用契約をしている。 国際化がますます進展し、国際感覚、コミュニケーション能力が更に必要となっているため、更に事業の充実が必要である。		
有効性	4 3 2 1 高 ■ □ □ □ 低	事業目的の達成に寄与している。 国際化が伸展して行く中、英語の活用能力の向上には大いに有効である。		
効率性	4 3 2 1 高 ■ □ □ □ 低	4人のA L Tを、各学校の時間割に合わせ、分散して配置しており、効率的に行われている。		
R3年度 決算額	13,828 千円	外部評価委員会の意見 A L Tと小中学校教員及び各学校教員間の連携を図りながら効果ある指導に努め、人員確保のみでなく人材確保にも力点を置き、事業の継続に努められたい。 また、I C T環境が整備されてきているので、教員と連携を図りながら、タブレット端末を活用した学習に取り組んでいただきたい。		
R4年度 決算額	13,428 千円			
R5年度 決算額	13,094 千円			

令和5年度教育委員会事務事業の点検・評価シート
基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	ともに社会を生き抜く力を身につける教育		施策2	
事業名	T T非常勤講師配置事業		確かな学力と自ら考える力の育成 (確かな学力の定着)	
事業の目的		補助教員を配置して、学習態度や生活習慣をしっかりと身につけさせ、児童生徒の基礎学力の向上を図りスムーズな学校生活が送れるようにする。		
事業の内容・効果		各小中学校に補助教員を配置して、複数の教員で学習指導や生活指導を行うことにより、児童生徒の学力の向上及び生活習慣の習得に寄与できた。 各小中学校に配置 小学校 計7人 週25時間 中学校 計2人 週20時間		
予算科目	款	教育費	予算現額(千円)	18,099千円
	項	教育総務費	執行済額	17,769千円
	目	事務局費	予算執行率	98.2%
評価項目	評価		理由	
妥当性	4 3 2 1 高 ■ □ □ □ 低		町単独事業である。 複数の教員で対応することにより、きめ細かな学習指導を行うことができる。	
有効性	4 3 2 1 高 ■ □ □ □ 低		担任とT Tによる指導法の工夫ができ、教育効果の向上に寄与している。学習の理解度や児童の特性にも配慮している。	
効率性	4 3 2 1 高 ■ □ □ □ 低		基礎学力の向上を図るために、複数の教員による学習指導は効率的である。	
R3年度 決算額	17,601千円		外部評価委員会の意見 小中学校教員とT T講師との協調関係を図り、より効率性を高めて、今後も事業の継続に努められたい。 小学校においては、学年にかかわらず各校の児童の状況に配慮して配置し、成果をあげているので継続されたい。	
R4年度 決算額	17,308千円			
R5年度 決算額	17,769千円			

基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

- 11 -

令和5年度教育委員会事務事業の点検・評価シート

基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	ともに社会を生き抜く力を身につける教育		施策3 豊かな人間性と社会性の育成 (コミュニケーション能力の育成)	
事業名	ふれあいの船事業			
事業の目的		北海道の雄大な自然の中での集団活動をととして、相互の心のふれあいや自然とのふれあいを深めるとともに、学校生活では得られない貴重な体験を会得して、心身ともに調和のある人間形成を図ることを目的とする。		
事業の内容・効果		町内の小学校6年生を対象に、上記目的を達成するため船を利用して4泊5日の体験学習を実施した。他校の児童との交流や普段とは違った環境での体験により、心身の成長を得られた。 対象児童 113人 参加児童 101人 (事業開始：平成18年度)		
予算科目	款	教育費	予算現額(千円)	8,939千円
	項	社会教育費	執行済額	8,731千円
	目	社会教育総務費	予算執行率	97.7%
評価項目	評価		理由	
妥当性	4 高 3 2 1 低 ■ □ □ □		コロナ禍後4年ぶりの事業開催となったが、事業の目的達成に貢献しており妥当である。	
有効性	4 高 3 2 1 低 ■ □ □ □		人間形成を図る目標の達成に寄与できる。	
効率性	4 高 3 2 1 低 ■ □ □ □		物価高騰等による交通費の増加により総事業費が増えたが、行程や事業費を見直し、最小限の個人負担金で事業を実施した。	
R3年度 決算額	0千円		外部評価委員会の意見 コロナ禍後4年ぶりに事業を実施したことは大いに評価できる。 今後は児童数の減少、保護者の希望等を考慮し、児童のためになる内容となるよう段階的な検討を望みたい。	
R4年度 決算額	6,095千円			
R5年度 決算額	8,731千円			

令和 5 年度教育委員会事務事業の点検・評価シート
基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	ともに社会を生き抜く力を身につける教育			施策 5 特別支援教育の充実 (豊かな心と健やかな体の創造)
事業名	特別支援教育就学奨励費事業			
事業の目的		特別支援学級等への就学の充実を図るため、障害のある児童生徒の保護者等の経済的負担を軽減するために必要な援助を行い、特別支援教育の振興を図る。		
事業の内容・効果		特別支援学級へ就学する児童生徒及び学校教育法施行令第 22 条の 3 に規定する障害の程度に該当する児童生徒の保護者に、学用品費等の支給を行い、特別支援学級への就学の充実を図った。 該当児童生徒 24 人 (事業開始：平成 31 年度)		
予算科目	款	教育費	予算現額 (千円)	650 千円
	項	小学校費・中学校費	執行済額	423 千円
	目	教育振興費	予算執行率	65.1%
評価項目	評価		理由	
妥当性	4 3 2 1 高 ■ □ □ □ 低		町民の生活に係わる事業である。 教育環境を整えるための町の関与は妥当である。	
有効性	4 3 2 1 高 ■ □ □ □ 低		目標は達成している。 対象の削減はできない。	
効率性	4 3 2 1 高 ■ □ □ □ 低		城里町教育支援委員会において、特別な配慮を要する児童生徒について調査審議し、決定している。	
R3 年度 決算額	212 千円		外部評価委員会の意見 国庫補助事業に対応する事業であり、今後も継続事業とされたい。	
R4 年度 決算額	533 千円			
R5 年度 決算額	423 千円			

令和5年度教育委員会事務事業の点検・評価シート
基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	安心して学べる教育環境の整備		施策5 教育へのアクセス（受けやすさ）の向上 （豊かな心と健やかな体の創造）	
事業名	就学支援事業			
事業の目的		経済的な理由で児童生徒の就学が困難な場合に、学校で必要な経費の一部を援助する。		
事業の内容・効果		生活保護世帯及び生活保護世帯に準ずる程度困窮すると認められる世帯等の児童生徒の保護者に、学用品費等の援助を行い児童の教育環境を整えた。 要保護児童生徒5人、準要保護児童生徒77人、事前支給9人		
予算科目	款	教育費	予算現額（千円）	7,083 千円
	項	小学校費・中学校費	執行済額	5,039 千円
	目	教育振興費	予算執行率	71.1%
評価項目	評価		理由	
妥当性	4 3 2 1 高 ☒ ☐ ☐ ☐ 低		町民の生活に係わる事業である。 教育環境を整えるための町の関与は妥当である。	
有効性	4 3 2 1 高 ☒ ☐ ☐ ☐ 低		目標は達成している。 対象の削減はできない。	
効率性	4 3 2 1 高 ☒ ☐ ☐ ☐ 低		認定要件の緩和が図られ、対象者が広がった。 事務の効率も図られた。	
R3年度 決算額	3,481 千円	外部評価委員会の意見 一人親世帯や低所得世帯など経済的支援を必要とする家庭は一定数あるので、児童生徒の教育環境を維持するため今後も継続事業とされたい。		
R4年度 決算額	5,147 千円			
R5年度 決算額	5,039 千円			

令和5年度教育委員会事務事業の点検・評価シート

基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	生涯にわたって学べる環境の整備			施策1
事業名	花いっぱい運動事業			生涯学習の充実 (活力あるまちづくり活動の推進)
事業の目的		地域住民及び児童生徒の環境美化に対する関心・意欲を高めるとともに、きれいな地域づくりを促進する。 参加23団体 努力賞 上限1万円 優秀賞 2万円（学校2、地域3） 最優秀賞 3万円（学校1、地域3）		
事業の内容・効果		花いっぱい運動で、素晴らしい成果を上げている地域・学校を表彰し、地域住民及び児童生徒の環境美化に対する関心・意欲を高められた。		
予算科目	款	教育費	予算現額（千円）	410千円
	項	社会教育費	執行済額	350千円
	目	社会教育総務費	予算執行率	85.4%
評価項目	評価	理由		
妥当性	4 3 2 1 高 ■ □ □ □ 低	環境美化を地域ぐるみで推進するための事業で対応、関与は必要である。		
有効性	4 3 2 1 高 □ ■ □ □ 低	優秀団体を表彰することにより関心・意欲を高めているので有効であるが、取組みに地域差はある。		
効率性	4 3 2 1 高 ■ □ □ □ 低	全参加団体に対して一定の報償金を支出して事業が実施されており効果的であった。		
R3年度 決算額	379千円	外部評価委員会の意見 地域住民の意識を啓発し、環境美化を目指したまちづくりとしての事業を望みたい。		
R4年度 決算額	370千円			
R5年度 決算額	350千円			

令和 5 年度教育委員会事務事業の点検・評価シート

基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	生涯にわたって学べる環境の整備		施策 1	
事業名	令和 6 年はたちの集い式典事業		生涯学習の充実 (青少年の健全育成)	
事業の目的	20 歳を迎えた青年の新たな門出を祝福し激励するとともに、社会からの信頼と期待に応えられる社会人になるための自覚と認識を促進する。			
事業の内容・効果	城里町立中学校の卒業者及び城里町に住所を有する者で、20 歳に達した青年男女に対し、感染症対策を施して、はたちの集いを開催した。 行政のみの運営ではなく、対象者から実行委員を募集して組織し、評価・実践に参加してもらった。 大人としての自覚と意識の高揚が高められた。 対象者 166 人 参加者 127 人 参加率 76.5%			
予算科目	款	教育費	予算現額 (千円)	523 千円
	項	社会教育費	執行済額	442 千円
	目	社会教育総務費	予算執行率	84.5%
評価項目	評価	理由		
妥当性	4 3 2 1 高 ■ □ □ □ 低	実行委員 (対象者) と協働し、事業の目的達成に貢献していて妥当である。		
有効性	4 3 2 1 高 ■ □ □ □ 低	対象者が自分の生まれ育った郷土のすばらしさを再認識するとともに、大人としての自覚と認識がなされ有効であった。		
効率性	4 3 2 1 高 ■ □ □ □ 低	対象・負担とも適切である。		
R3 年度 決算額	453 千円	外部評価委員会の意見 対象者から実行委員を募って式典を行っているが、地元を離れている者が大半であり、毎年、実行委員の応募に苦慮している現状があるので、良い方法を検討して、今後も事業の継続を望みたい。		
R4 年度 決算額	510 千円			
R5 年度 決算額	442 千円			

令和5年度教育委員会事務事業の点検・評価シート

基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	生涯にわたって学べる環境の整備		施策1	
事業名	青少年育成城里町民会議事業		生涯学習の充実 (青少年の健全育成)	
事業の目的		町民一体となって、次代を担う青少年の健全育成を図る。		
事業の内容・効果		町民会議では、明るく楽しい家庭づくりを推進するために、毎月第3日曜日を「家庭の日」と定めている。また、図画・作文コンクール事業を実施し、「家庭の日」の普及、啓発活動に努めた。		
予算科目	款	教育費	予算現額(千円)	990千円
	項	社会教育費	執行済額	990千円
	目	社会教育総務費	予算執行率	100.0%
評価項目	評価		理由	
妥当性	4 3 2 1 高 ■ □ □ □ 低		子どもから見た家庭の団らん等、家庭生活を題材に作品を募集することによって、「家庭の日」に対する意識の高揚が図られ、有効な手段である。	
有効性	4 3 2 1 高 ■ □ □ □ 低		図画や作文を展示することにより、町民に家庭の果たす役割の重要性を認識させ、家族や親子のふれあいを深める良い機会となった。	
効率性	4 3 2 1 高 ■ □ □ □ 低		優先順位はなく公平である。	
R3年度 決算額	990千円		外部評価委員会の意見 青少年育成城里町民会議については、県民会議の傘下に組織されている関係もあり、今後も継続して事業を実施されたい。 さらに、今後は地域ぐるみで子どもたちの健全育成を図る取り組みを検討されたい。	
R4年度 決算額	990千円			
R5年度 決算額	990千円			

令和5年度事務事業の点検・評価シート

基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	生涯にわたって学べる環境の整備		施策 1	
事業名	コミュニティセンター城里自主事業		生涯学習の充実 (芸術・文化事業の開催)	
事業の目的		コンサート等の公演を開催し、芸術・文化を鑑賞する機会を町民に提供することで、芸術文化の高揚に努める。		
事業の内容・効果		コミュニティセンターのホールにおいて、令和6年3月に「よしもとお笑いライブ IN 城里 2024」を開催した。 また、小中学生の「音楽のつどい」の中で町出身の音楽家等のゲストコンサートを行った。 来場者数 544 人（未来場 7 人） 売上額 1,928,500 円（1 席 3,500 円×売上枚数 551 枚）		
予算科目	款	教育費	予算現額（千円）	5,368 千円
	項	社会教育費	執行済額	5,154 千円
	目	コミュニティセンター費	予算執行率	96.0%
評価項目	評価		理由	
妥当性	4 3 2 1 高 ■ □ □ □ 低		町民の芸術文化に対する意識の高揚に寄与しているため、今後も開催を計画することが望ましい。	
有効性	4 3 2 1 高 ■ □ □ □ 低		身近な場所で、芸術文化に触れあう機会を提供できるため、有効である。	
効率性	4 3 2 1 高 ■ □ □ □ 低		歳入の面を見れば、座席数 600 席の収入で多くは望めないが、上記の有効性を考慮すれば、事業の効果はあった。	
R3 年度 決算額	4,172 千円	外部評価委員会の意見 音楽のつどいと連携し、小中学生等が芸術に触れる機会を提供したことは評価できる。 今後も様々な芸術・文化に触れる企画を、教育委員会の関連事業との連携を図りながら推進されたい。		
R4 年度 決算額	5,460 千円			
R5 年度 決算額	5,154 千円			

令和5年度教育委員会事務事業の点検・評価シート

基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	生涯にわたって学べる環境の整備		施策2 生涯スポーツの充実	
事業名	城里町マラソン大会			
事業の目的		町民の健康維持と体力づくり、並びに児童生徒の体力向上を目的とし、マラソン大会を開催する。		
事業の内容・効果		上記目的を達成するため、城里町に在住・在学・在勤する小中学生、一般人（高校生以上）を対象に、令和4年度に続き日本自動車研究所城里テストセンターで大会を開催した。 参加者計 343 人 内訳）小学生 149 人 中学生 157 人 一般 37 人		
予算科目	款	教育費	予算現額（千円）	1,322 千円
	項	保健体育費	執行済額	1,233 千円
	目	保健体育総務費	予算執行率	93.3%
評価項目	評価	理由		
妥当性	4 3 2 1 高 ☒ ☐ ☐ ☐ 低	事業目的達成に貢献している。		
有効性	4 3 2 1 高 ☐ ☒ ☐ ☐ 低	町民の体力増進、児童・生徒の体力向上に寄与できる。		
効率性	4 3 2 1 高 ☒ ☐ ☐ ☐ 低	対象・負担とも適切である。実施方法も工夫され、スムーズな運営がなされた。		
R3 年度 決算額	0 千円	外部評価委員会の意見 会場が変わって2回目の開催だったが、前回の課題が改善され、参加者も増えているので大いに評価できる。 町民の体力増進、児童生徒の体力向上に係る事業として有効であるため、今後も工夫を重ね継続されたい。		
R4 年度 決算額	991 千円			
R5 年度 決算額	1,233 千円			

令和5年度教育委員会事務事業の点検・評価シート

基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	郷土の文化の継承と文化財の保護		施策1 地域文化の伝承	
事業名	文化財保護事業（地域文化の伝承）		施策2 文化財の保護とPR	
事業の目的		地域住民により長く伝承され、地域に根ざした郷土民俗芸能の保存・継承活動の助成		
事業の内容・効果		町指定無形民俗文化財の保存団体である古内大杉ばやし保存会と下赤沢民俗芸能保存会（文化財名「八木節源太おどり」）が運営事業補助金の交付対象で、活動のあった古内大杉ばやし保存会に補助金を交付した。		
予算科目	款	教育費	予算現額（千円）	102 千円
	項	社会教育費	執行済額	51 千円
	目	文化財保護費	予算執行率	50.0 %
評価項目	評価	理由		
妥当性	4 高 3 ■ 2 □ 1 □ 低	町の無形文化財として指定されている保存団体を対象としていることから、助成対象とすることは妥当である。		
有効性	4 高 3 ■ 2 □ 1 □ 低	運営事業補助金は、保存団体の活動支援として有効である。		
効率性	4 高 3 ■ 2 □ 1 □ 低	補助金は、保存団体の活動のうち団体が必要な内容に優先的に使用できるため、事業目的に対し一定の効率性は確保できる。		
R3 年度 決算額	102 千円	外部評価委員会の意見 地域文化の伝承事業として有効である。 保存会として指導者、演者等の育成にも配慮し、町内外への発表など啓発に力を入れるとともに、他の民俗芸能の発掘にも努めてほしい。		
R4 年度 決算額	0 千円			
R5 年度 決算額	51 千円			

令和5年度教育委員会事務事業の点検・評価シート

基本構想 【人と文化を育む人間性豊かなまちの実現】

施策名	郷土の文化の継承と文化財の保護		施策2	
事業名	文化財保護事業(文化財保護とPR)		文化財の保護とPR	
事業の目的	文化財の保護・保存と国民の文化的向上を目的とする文化財保護法に則り、有形・無形・埋蔵文化財の保護、保全を行う。			
事業の内容・効果	指定文化財をはじめとする町文化財について協議するために文化財保護審議会を運営し、その結果に従って必要な措置を行った。 令和5年度は、町が所有する文化財敷地等の管理を行った。			
予算科目	款	教育費	予算現額(千円)	3,470千円
	項	社会教育費	執行済額	2,747千円
	目	文化財保護費	予算執行率	79.2%
評価項目	評価	理由		
妥当性	4321 高■□□□低	指定文化財の保護保全について必要な措置を行った。埋蔵文化財包蔵地について、必要な手続きを実施し県に進達した。いずれも事業目的に対し実施は妥当である。		
有効性	4321 高■□□□低	事業目的に対し、実施内容は有効である。		
効率性	4321 高■□□□低	文化財保護については長期的な取り組みが必要であり、必要な対応を適宜行っている。		
R3年度 決算額	1,930千円	外部評価委員会の意見 町の有形・無形、地域の歴史、文化を語り継いでいくことは自治体の役目である。今後も埋蔵文化財の保護と活用、PRに努められたい。 ただし、保護事業・予算措置については長期的視野で計画的な執行に配慮されたい。		
R4年度 決算額	1,975千円			
R5年度 決算額	2,747千円			

教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会会議の開催回数

定例会	12回
臨時会	3回

(2) 教育委員会定例会及び臨時会での議案等の件数

総件数	49件
議案	33件
承認	6件
報告	10件
要望	0件
選挙及び指定	0件

(3) 会議録の作成方法

要旨の筆記

(4) 教育委員会定例会及び臨時会における主な審議内容

月	審 議 内 容
4月 臨時会	・城里町教育委員会教育長職務代理者の指名について
4月 定例会	・城里町立学校評議員の委嘱について ・城里町スポーツ推進委員の委嘱について ・城里町文化財保護審議会委員等の委嘱について
5月 定例会	・城里町学校運営協議会の設置並びに学校運営協議会委員の任命について ・城里町地域クラブ活動推進協議会委員の委嘱について ・区域外就学許可承認申請について
6月 定例会	・令和5年度要保護・準要保護児童生徒就学援助費及び特別支援教育就学奨励費の交付額の決定について ・令和5年度要保護・準要保護児童生徒の認定について ・令和5年度特別支援教育就学奨励費の交付決定について ・城里町社会教育委員及び公民館運営審議会委員の委嘱について ・城里町図書館協議会委員の委嘱について ・城里町教育支援委員会委員の委嘱について ・城里町立学校給食センター運営委員会委員の委嘱について

月	審 議 内 容
6 月 定例会	・ 城里町学校運営協議会委員定数の変更並びに学校運営協議会委員の任命について ・ 区域外就学許可承認申請について ・ 令和 5 年度城里町一般会計補正予算（教育委員会所管分）について
7 月 定例会	・ 令和 6 年度小中学校において使用する教科用図書並びに小中学校特別支援学級(知的障害)において使用する教科用図書の採択について ・ 学区外就学許可承認申請について ・ 令和 5 年度特別支援教育就学奨励費の追加交付決定について
8 月 定例会	・ 学区外就学許可承認申請について ・ 城里町学校運営協議会の設置並びに学校運営協議会委員の任命について ・ コミュニティセンター運営委員会委員の委嘱について ・ 城里町文化財保護審議会への諮問について ・ 令和 5 年度準要保護児童生徒の追加認定について ・ 令和 5 年度城里町一般会計補正予算（教育委員会所管分）について
9 月 定例会	・ 学区外就学許可承認申請について ・ 城里町立学校職員の自家用車の公務利用に関する取扱規則の一部を改正する規則について
1 0 月 定例会	・ 区域外就学許可承認申請について ・ 城里町入学等支援金交付要綱の制定について
1 1 月 定例会	・ 学区外就学許可承認申請について ・ 区域外就学許可承認申請について ・ 城里町学校運営協議会の設置並びに学校運営協議会委員の任命について ・ 令和 5 年度城里町一般会計補正予算（教育委員会所管分）について
1 1 月 臨時会	・ 学校歯科医の委嘱について
1 2 月 定例会	・ 学区外就学許可承認申請について ・ 区域外就学許可承認申請について ・ 城里町教育委員会ハラスメントの防止等に関する要綱の制定について
1 月 定例会	・ 学区外就学許可承認申請について ・ 区域外就学許可承認申請について ・ 城里町スクールバス運行に関する要綱の制定について ・ 区域外就学許可承諾申請について

月	審 議 内 容
2 月 定例会	・区域外就学許可承認申請について ・令和 6 年度新入学児童生徒学用品費事前支給に係る準要保護児童生徒の認定について ・城里町地域クラブ活動推進協議会設置要綱の一部を改正する告示について ・城里町地区集会施設補助金交付要綱の一部を改正する告示について
3 月 臨時会	・区域外就学許可承諾申請について ・令和 5 年度末、令和 6 年度始管理職人事内申について
3 月 定例会	・令 6 年度城里町奨学生採否の決定について ・区域外就学許可承認申請について ・学校薬剤師の委嘱について ・城里町行政組織の見直しに伴う関係教育委員会訓令の整備に関する訓令について

会議運営上の主な工夫

「議案等」以外に、教育長報告、その他の報告を加え、その時々にあった案件について協議を行った。

(5) 定例会及び臨時教育委員会以外の活動状況

4 月	・年度初めの辞令交付式
6 月	・教育委員による学校訪問
7 月	・城里町総合教育会議
9 月	・城里町総合教育会議（第 2 回）
1 月	・教育委員による学校訪問（2 日目）
3 月	・年度末の辞令交付式

教育委員の研修会等

6 月	茨城県市町村教育委員会連合会総会	(書面決議)
7 月 1 0 日	東茨城郡教育委員会連絡協議会定期総会	(城里町)
1 0 月 2 7 日	東茨城郡教育委員会連絡協議会役員会	(茨城町)
1 1 月 2 8 日	東茨城郡教育振興大会	(茨城町)
2 月 2 6 日	新任教育長及び教育委員並びに新任職員 研修会	(動画配信)

学校訪問	小学校 5 校 中学校 2 校
入学式・卒業式	小学校 5 校 中学校 2 校
運動会・体育祭	小学校 5 校 中学校 2 校
その他	町 P 連研修会、はたちの集い 花いっぱい運動審査会

○反省点

毎月 2 5 日に開催している定例会及び随時開催の臨時会は、ともに、城里町教育委員会会議規則に則り運営されている。

定例会については、毎月 2 5 日午前 9 時 3 0 分から開催と内部で決めているが、各委員の予定に合わせた 2 5 日前後の開催日になっている。

また、審議内容を深めるために、議案書を事前に各委員へ配付し、委員会内での意見の集約、統一を図ることに努めている。緊急の案件に対しては、必要に応じて臨時会を開催し、委員会としての意見の統一化を図っている。

今後も、公正公平な判断のもと、さらに委員会活動が活発になるように努めていきたい。

令和５年度教育長及び教育委員名簿

(令和５年４月３日現在)

職 名	氏 名	任期 回数	当初任命日	現在の任期	女性 委員	保護者
教育長	そえた さとし 添田 智	1	R 5. 4. 1	R 5. 4. 1 ~ R 5. 7. 12		
教育長 職務代理者	ながやま とおる 長山 透	1	R 3. 3. 25	R 3. 3. 25 ~ R 7. 3. 24		
委 員	わたひき ひとみ 綿引 ひとみ	1	R 2. 4. 1	R 2. 4. 1 ~ R 6. 3. 31	○	
委 員	かすや しんいち 粕谷 眞一	1	R 5. 4. 1	R 5. 4. 1 ~ R 9. 3. 31		
委 員	ひらつか しんいち 平塚 眞一	1	R 5. 4. 1	R 5. 4. 1 ~ R 8. 4. 22		○

教育委員会外部評価委員の意見

ともに社会を生き抜く力を身につける教育

A L T設置事業については、A L Tと小中学校教員及び各学校教員間の連携を図りながら効果ある指導に努め、人員確保のみでなく人材確保にも力点をおかれ継続されたい。加えて、英語圏を始めとした国々と日本との文化の違いを正しく理解したり考えたりできる教育環境づくりにも努められたい。

T T非常勤講師配置事業については、A L T設置事業と同様、学校関係職員との協調関係を図るとともに、各校の児童数や児童の特性に配慮して、学年にかかわらず配置するなどの工夫を今後も継続されたい。

また、学校のI C T環境が整備されてきているので、A L T設置事業・T T非常勤講師配置事業の各事業において、教員と連携を図りながら動画や音声などのデジタル教材を含めタブレット端末を活用した学習に取り組んでいただきたい。

適応指導事業については、不登校になる児童生徒は増える傾向にあり、その要因も様々であることから、児童生徒一人一人の状況に合わせた対応が求められている。学校復帰のみを目標とせず、校内フリースクールとの連携を図りながら、児童生徒が家庭外で生活できる場所となるよう事業を継続されたい。

ふれあいの船事業については、コロナ禍後4年ぶりに以前と同様に事業を実施したことは大いに評価できる。今後も児童数の減少、保護者の希望等を考慮して、運営や参加体制の検討を望みたい。

特別支援教育就学奨励費事業については、発達障害など支援を必要とする児童が増える傾向にあり、国庫補助事業でもあるため継続事業とされたい。

安心して学べる教育環境の整備

就学支援事業については、一人親世帯や低所得世帯など経済的支援を必要とする家庭は一定数あるので、児童生徒の教育環境を維持するため支援項目の拡大を検討しつつ今後も継続事業とされたい。

生涯にわたって学べる環境の整備

花いっぱい運動事業については、地域住民の意識を啓発し、環境美化を目指したまちづくりとしての事業を望みたい。

はたちの集い式典事業については、実行委員の応募に毎年苦慮している現状が

あるようだが、対象者本人達が事業に関わることは有意義なことなので、良い方法を検討して、今後も事業の継続を望みたい。

青少年育成城里町民会議については、県民会議の傘下に組織されている関係もあり、継続事業であるが、県内には独立機関として実施しているところもあるので、将来的に検討してはどうか。

コミュニティセンター城里自主事業については、小中学校の音楽のつどいと連携するなど、これまでにない事業が実施された。今後も様々な芸術・文化に触れる企画を、教育委員会の関連事業との連携を図りながら推進されたい。

マラソン大会については、会場が変わって2回目の開催だったが、前回の課題が改善され、参加者も増えているので大いに評価できる。町民の体力増進、児童生徒の体力向上を図れる有効な事業であるため、今後も、町民への啓発に努め、参加者を増やす方法を工夫されたい。

郷土の文化の継承と文化財の保護

地域に引き継がれている伝統文化・伝承事業として有効なものの存続や、町の財産である文化財の保護について計画的に予算化し、保存に努めるとともに、発表や公開の機会を増やすなどその活用とPRに努められたい。

各学校においては、「城里学ぶつく」の活用を通して、郷土理解や郷土愛を深めていただきたい。また、地域の人たちへの興味関心の喚起や啓発活動をお願いしたい。

【 総 合 意 見 】

外部評価の対象となった13事務事業についての評価を基にして、各事業についての見直しと今後の効果的な運営に努められたい。

また、少子化に伴い、教育効果や地域住民の啓発について、他の機関との連携や開拓（新たな手法）を望むとともに、郷土文化の継承と文化財の保護についても教育委員会事業として創意工夫されたい。

文化財関係の予算については、限られた財源の中で長期的な計画の基、効率的な運営を推進されたい。

学校においては、児童生徒の学習環境に限らず校務においてもICT化が進んでいる状況にある。児童生徒がICT環境を十分に活用できるよう、教職員のICT環境の整備や研修を計画的に実施していただきたい。

教育委員会活動については、教育環境を十分に把握した上で、教育活動への支援に力を注いで教育力の向上に努めていただきたい。また、認定こども園から小

学校へと円滑に移行できるよう、学びの連続性を意識した指導内容・指導方法の在り方を検討していただきたい。さらに廃校施設の利活用についても、継続して有効利用を検討していただきたい。

令和5年度は、ふれあいの船事業をはじめ多くの事業がコロナ禍以前と同様に実施された。今後も引き続き、デジタル社会への移行に対応しながら、子どもから大人まで全ての世代が学び、参加できる事業を推進していただきたい。

令和 7 年 2 月 17 日

外部評価委員 松崎 忍

外部評価委員 阿久津 双子

外部評価委員 平場 寿夫